

特42

459

5
書
72

東 京 圖 書 館				
一 冊	二 號	三 架	四 函	音 樂 類
				和 書 門



ハ 嶋
南ノ海原ヤクバ 嶋ノ浦

是ハ都方より出たる

僧より科未回國を云ひの程よ

此度思ひ立西國行脚と云はれ

カキ震るる浪乃たふる毎ク

づり日の雲も影ふりて其方の空

音

うら出^りた^りて大將軍の出立よの赤
地の錦めしつれよ紫とこの御
着宵鐘をりりくはらよりり立
より一院の使密に大御指非違
使五位の尉源義経（かみ）が業餘（たご）り
はこつりあつた大將也とみり今
のちよも出たてい^{（こ）}に平家
の

方よりも豪戦ひて終兵船一艘
漕ぎきつて戻りつるつらつて
陸のつらき侍舞よ^{（下）}源平入方
うもつる兵五十騎計中もつらつたの
やれ甲冑もあきてまをたきみえ
一層よ^{（下）}平家の方より悪七兵衛
景清もあきてつらつたつらつた

雲の夜あけと曇らぬ空の
今宵の空 昔より思ひあは
舟と葉の合戦の備 可かきと
忘れえぬ 身よりいづれよか
弓のウツク本七 手あつたまは
箭の道へ味くらぬ味ひも
死の海にまゝの身もわづら
死の海にまゝの身もわづら

恨めやちよかくなれぬ物に海
深きよよ後物かろがありく
思ひあはと痛浮の故郷よけり
久しき年あまのの思ひあは
ひまを終る昔のちかきあり
思ひあはと昔の思ひあは
久しき年あまのの思ひあは

ひよ夫をな梅人。毎とら駒となん
て打られく気あまふくつをひ
し責靴。具付行かある
まに判官らふと行く。浪よゆれ
て清よ。具付。一。時。境
敵よ。あふく。敵よ。と
やうく。駒と浪のよと。うき。敵

かちくゆ。浪よ。敵。是とら
より。船と。よ。せ。無。ま。よ。か。ま。て。既。よ。あ
やうく。み。し。珍。ひ。よ。し。ま。た。ら。ぬ。て
を。切。松。ひ。紋。よ。ら。と。取。一。本。上。諸。よ
打。あ。り。れ。具。付。兼。房。か。や。う。口。情
乃。は。し。舞。や。あ。渡。邊。あ。ら。く。景。付。り。か
し。是。も。て。松。人。さ。い。文。を。さ。り。入

明治十七年三月六日翻刻御届
同年四月十二日別製本御届

定價四錢

翻刻人

京都府平民

寺田熊



下京區第五組赫屋町

錦小路五梅屋町十三番戶

